

特集 文学における土地の力

対談 藤沢周 × 佐藤洋二郎 6

南木佳士 浅間山を仰ぐ 26

佐高 信 裏日本の反骨 30

富永正志 森内俊雄と眉山 34

又吉栄喜 小説と原風景 38

関根 謙 文学の場としての大連——考察の序章 42

楊 逸 「故郷」の幻 47

平田俊子 隠岐と福岡 52

一挙掲載

小説・さようなら大江健三郎こんにちは 司修 120

文科 かわるかわらぬ 三木卓 56

鍼 田口ランディ 58

母島のキユウリ 藤原智美 60

ふたつのプレヴェール詩集 村松剛と小笠原豊樹 神谷光信 62

カフカにおける祈りの形式としての執筆 中澤英雄 64

鎌倉幽世八景〈8〉

創作 化粧坂(最終回) 藤沢周 80

ニワさん 片島麦子 90

医学と文学の間〈12〉 大鐘稔彦 103

——アウトサイダーの生涯——

自由の女神 井川真澄 177

ゲロ味フラペチーノ 湯谷大志 212

追悼・芹沢俊介 70

「ついでに父親」は芹沢俊介さんの本来の姿 名取二三江

追懐・芹沢俊介 勝又浩

同人雑誌季評

自由あるいは他者の後退 河中郁男 266

小説を書くということ 谷村順一 283

新連載 大江健三郎氏・旧懐——記憶・追憶・幻想〈1〉 柴田翔 230

[CONTENTS]

名作の舞台——記録と記憶⑪⑫
連載 李白『早発白帝城』・杜甫『登岳陽楼』 清水節治 68

遠き日々 映る影たち〈2〉 柴田翔 226

明日行灯〈3〉
雑踏のエヴァ 麻田実 232

海の詩学——三島由紀夫〈10〉
ラデイゲに憑かれた十五歳(中)
——小説「公園前」と「雨季」・鳥瞰図を中心に—— 鈴木ふさ子 237

学界への窓 20
雑誌『児童文学』と宮澤賢治
——香気高い童話のルネッサンス—— 近藤加津 254

中上健次と韓国〈4〉
中上健次と李良枝 中沢けい 258

文藝季評 43
老若東西の女性たち 伊藤氏貴 262

大倉山から 16
「健康」への綱渡り——『若人よ蘇れ』から『沈める龍』 松本徹 290

大倉山から 16
「健康」への綱渡り——『若人よ蘇れ』から『沈める龍』 松本徹 290

今号の勝又浩「道元」・「正法眼蔵」の宇宙と人間、佐藤洋二郎「私小説」を歩く」は休載となります。

砦——
勝又浩 51・102

会員規約 304
今号の執筆者 306
編集後記 305

季刊文科 93
KIKAN BUNKA

季刊文科 93

鳥影社